

外来生物の危険性について!!

外来生物とは？

もともとその地域にいなかったのに人間活動によって海外から入ってきた生物のことを指します。日本の野外に生息する外来生物の種は2000種を超えるといわれています。

外来生物が引き起こす3つの悪影響！

- 1 日本固有の生態系への影響
(在来生物を捕食する、在来生物の餌を奪う等生活環境を奪う)
- 2 人の生命・身体への影響
(毒をもっている、かみついたりする)
- 3 農林水産業への影響
(農林水産物を食べる、畑を踏み荒らす)

外来生物被害予防3原則！

- 1 入れない (悪影響を及ぼすかもしれない外来生物を入れない)
 - 2 捨てない (飼っている外来生物を野外に捨てない) ※
 - 3 拡げない (野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない)
- ※飼えなくなったミドリガメ等の**外来生物を野外に遺棄するのは違法**です。

袋井市に生息している主な外来生物



ミシシippアカミミガメ



スクミリンゴカイ



オオキンケイギク

緊急対策外来種

ミシシippアカミミガメ (通称：ミドリガメ)



ミシシippアカミミガメの生態

ペットとして大量に日本に輸入されたものが、遺棄され野生化しました。産卵期は5月～7月であり、産卵期中に3～6回産卵します。川の流れが穏やかで日光浴に適した陸場の多い場所を好みます。雑食性であり、藻類や水草、昆虫、エビ、ザリガニ、貝類、魚類等さまざまな物を採食します。

生態系への影響

ミシシippアカミミガメは、在来のカメ(イシガメ等)の生活環境をに影響を及ぼしたり、水草、カルガモ等のヒナや魚類を食べてしまいます。

ミシシippアカミミガメを飼っている方へ

ミシシippアカミミガメは幼体では5cm くらいの大きさですが、成長すると体長は20cm以上になり、寿命は40年近くになります。ミシシippアカミミガメを飼う場合は成長や寿命などに十分に注意し、最期まで大切に飼うようにしましょう。



ペットは責任を持って
最期まで大切に飼うように
しましょう!!



※野外への遺棄は犯罪です！
動物愛護法により、飼っているカメを野外へ捨てると100万円以下の罰金刑に問われる場合があります。絶対に野外へ捨てないで下さい!!

重点対策外来種

スクミリンゴガイ

(通称：ジャンボタニシ)



スクミリンゴガイの生態

食用目的で日本に入ってきたが、その後放棄され野生化しました。水田、ため池等に多く生息し、5～7月に草や用水路の壁に赤い卵を産卵します。

活動期は4月から9月頃までで、田植後3週間程度の苗を好んで食害します。

スクミリンゴガイは寒さに弱いため、大きな貝は越冬せず死滅しますが、小さな貝は越冬し、春に活動することがあります。



スクミリンゴガイの生貝



スクミリンゴガイの卵塊

防除対策の方法

水路からの進入防止

取水口と排水口にネットや金網（目合5～20mm程度）を設置する

貝の防除

冬期に耕起し、寒さにさらすことで越冬する成貝を減らす

水路の卵塊を水面下に払い落とす（水面下では卵塊は孵化できない）

水田での薬剤防除

スクミノン、スクミンベイト3、スクミハンター等の農薬を使用する

※農薬の使用方法、使用上の注意事項を守って使用しましょう

特定外来生物

オオキンケイギク



オオキンケイギクの生態

オオキンケイギクは北米原産の多年草で、5月～7月にかけて黄色のコスモスに似た花を咲かせます。袋井市内でも河原などでよく見かけます。

オオキンケイギクは強靱でよく生育することから、いったん定着してしまうと在来の野草の生育場所を奪い、周辺の生態に大きな影響を及ぼします。

オオキンケイギクは外来生物法で「特定外来生物」に指定されており、栽培、運搬、販売、野外に放つなどが禁止されております。くれぐれも自宅で栽培しないよう、お願いいたします。



黄色くてきれいな花だけど
自宅には植えないようにしましょう!!



処理する時の注意点

ご自宅のお庭にオオキンケイギクが生えており、少量を処理するときは次のような手順で適切に処理をお願いします。

- ① 抜き取る
- ② 2～3日天日にさらし枯死させる ※
- ③ ビニール袋等に密閉して燃えるゴミとして処分する

※ 抜き取ってすぐの根には再生能力があります。

野外への生きたまま移動や保管するなどの行為は禁止されています!!